

ぶらっとサロン通信 令和2年6月号



報告:有楽斎

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっているのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、自粛し**現在休局中**です。

6月も、4月5月に続き全回休局となりました。今号でも前増刊号につづいて、椿蘊蓄(うんちく)を少々。(ぶらっとサロン再開まで、しばらく椿に係る蘊蓄を掲載予定です)

『ユキバタツバキ(雪端椿)』学名: *Camellia japonica* var. *intermedia* Tuyama
日本海側では海岸部にヤブツバキ、山地部にユキツバキがあり、両種の接触する山麓部一帯には多様な自然雑種がある。これを総称してユキバタツバキと呼ぶ。(分布:山形県～滋賀県の日本海側の山麓) ~『色分け花図鑑椿』桐野秋豊著/榊学習研究社より

山門(やまかど)水源の森(長浜市西浅井町)は、日本の生物の北限、南限が混在するところです。暖かい地域にある「ヤブツバキ」、寒い地域にある「ユキツバキ」、それぞれの北限、南限がここにあり、両方の雑種である「ユキバタツバキ」が群生しています。あいにく花は終わりましたが、また来年の早春を楽しみにしたいです。ユキバタ椿の宝庫にはかなりの株があるそうです(5000株)、それぞれに番号が付けられています。雪国に多いユキツバキと暖かい気候を好むヤブツバキが自然交雑してできた中間種で、この森の気候の特徴をよく表しています。大きな群落があり深い雪にも耐えられるよう樹高は低くしなやかです。色はピンクから赤まで様々です。

山門(やまかど)水源の森 ユキバタツバキ案内板と山門水源の森に咲くユキバタツバキ



京都府立植物園のユキバタ椿



大阪市立大学理学部
附属植物園のユキバタ椿



越の吹雪(こしのふぶき) ユキバタ系
学名: *Camellia japonica* cv. 'KoshinoFubuki'
※学名の『cv.』は園芸品種を表します

緊急事態宣言は全国で解除されましたが、コロナウイルス対策(三密)が避けがたいため当面自粛し、7月も休局といたします。(白玉椿)